

☆ 目指す子ども像

- 強い子は
- がんばる子
- やさしい子



わくわく・ドキン!

4・3・1 No13 池内幼稚園

卒園式・修了式に向けて!

令和3年度も残すところ1か月となりました。今年度もコロナ禍に振り回された1年となりました。本園でも3学期に入って感染が急拡大し、休園をはじめ多くの行事の変更や中止を余儀なくされました。保護者の皆様には、ご心配やご迷惑をおかけして大変申し訳ありませんでした。



今後も、with コロナの生活が続くと思います。従来のやり方に捉われず、状況に合わせてその時その場で最適な方法を考え、臨機応変に対応していきたいと思っています。

マラソン大会やクリスマス発表会も、日程を分散したり時間差を設けたりすることで、混み合わずにゆっくり観ていただくことができました。必要に迫られての変更でしたが、このようにプラス面もありました。活動は制限されても、子ども同士、PTA 会員同士の**関わり**や**交流**は、工夫して続けていきたいと思っています。

卒園に向かって! -日々を大切に!



年長の子どもの卒園式(3/19)が間近に迫ってきました。今年もコロナ禍で楽しみにしていた行事が無くなったりして、寂しい思いをしたことと思います。



そんな中でも、**希望が丘**や**五郎の滝**など、**豊かな自然**の中で思いっきり体を動かして、貴重な体験をたくさん積み重ねてきました。また、室内では、工夫を凝らした**手作りおもちゃ**で、



友達と関わり合いながら遊びこんでいました。舞鶴市の研究指定を受けて、ZOOMでの公開保育を通して遊びの様子を発信することもできました。卒園式に向けての練習も始めています。

希望の春に向けて、いざスタート!

3月の主な行事予定

3月

- 1 (火) 1月誕生会 10:30
- 2 (水) 2月誕生会 10:30
- ※ ご飯の試行(給食)
- 3 (木) 3月誕生会 10:30
- 4 (金) PTA本部引継会 19:00

誕生会
各家族1名
動画配信あり

- 1 7 (木) 給食終了
- 1 8 (金) 卒園式準備 午前中保育



- 朝・午後預かり有
- 1 9 (土) 卒園式 (年長参加)

- 2 1 (月) 春分の日
- 2 2 (火) 年中以下通常保育
- 2 3 (水) 〃

弁当持参
弁当持参

- 2 4 (木) 修了式 午前中保育 朝・午後預かり有

令和4年度新入園児制服受渡し 15:00

⇒ 2・2・23・24日は、卒園児の預かりが有ります

* 卒園式は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、下記の内容で行います。

- ・来賓の出席はありません。
- ・内容の縮小(祝辞無し)・マスク・消毒等御協力をお願いいたします。

クラスで豆まき!

今年も昨年に引き続き、コロナ禍で各クラス単位で豆まき(節分)をしました。鬼の面を工夫して作ったり、お面をつけて追いかけてたり、豆の代わりに新聞紙を丸めて投げたりして楽しみました。節分は冬と春を分ける節目の行事です。「鬼は外! 福は内」と豆を投げて、怖い鬼(心の中の鬼も)を退治します。



最近では、鬼より怖いのは**新型コロナウイルス**です。心も体も恐怖の罠に陥れます。子ども達には鬼と共に**新型コロナウイルス**も追い払って、**心身共に一回り大きく成長し、次の学年へ進級したり、小学校へ入学(年長)したりして欲しいと願っています。**

「春」の足音が聞こえて来ます!
☆今年度は、数年に一度の寒波が押し寄せ、例年以上に春を待ち遠しく思っていました。やっと春の足音が聞こえてきました。季節は嘘をつきません。秋に年長の子も達が植えたチューリップの球根も、土の中から小さな頭を出しています。昨年のように、色とりどりの可愛い花を咲かせてくれることを願っています。
☆園庭の桜も、厳しい冬の寒さに耐えて、枝先に小さな芽が出ています。暖かくなるにつれて蕾が膨らみ、四月には綺麗な花を咲かせて子ども達を迎えてくれることと思います。
暖かい春の直前(3/11)!



心ときめく わくわくコーナー

北京オリンピックを通して!

☆北京オリンピックでは、多くの感動と勇気をもらいました。日本選手もメダルを期待されて、すごいプレッシャーだったと思います。特にマスコミで前評判が高かった選手は、「メダルを取って当然!」のように、観戦する側も思い込んでしまいがちです。しかし、実力が伯仲している中では、勝敗は紙一重です。ちょっとしたコンディショニングの違いやアクシデントで、実力を出し切れないうちで終わることの方が、はるかに多いと感じました。「一流」と言われる選手は、そんな状況の中でも、諦めず最善を尽くす精神力と技術力を兼ね備えた人だと思えます。試合後のインタビューの中で、期待通りの結果が出せず、悔しい思いを吐露する場面もありましたが、一方で大会に向けて懸命に努力を続けてきた自分に対して、結果はどうあれ**納得**しているとの言葉も多かったです。



